

肝炎のほとんどが肝炎ウイルスによって起きる「ウイルス性肝炎」です。感染後の経過は、ウイルスの種類と感染した時期によって異なり、一過性の急性肝炎で治る場合と慢性肝炎を発症するものがあります。症状として、全身倦怠感、食欲不振、吐き気、発熱がみられることもありますが、肝炎ウイルスのなかには、感染後も症状のないまま経過し、やがて慢性肝炎を発症して、肝硬変、肝がんという経過をたどるものがあります。

健康診断などの検査を受けていただくことで、肝臓の機能が正常かどうか確認でき、肝疾患の早期発見につながります。

○肝炎ウイルス検査を受けましょう

肝炎ウイルス検査は、町の同日検診や保健所、医療機関で受けることができます。

- ① 町の同日検診の肝炎ウイルス検査は、40歳以上で過去に検査を受けたことがない方が対象です（自己負担1,000円）。また、右記の対象年齢の方には検査が無料で受けられる受診券を送付しています。
- ② 過去に検査を受けたことがない方は、保健所や委託医療機関において無料で検査を受けることができます。

7月28日は 「日本肝炎デー」



肝炎総合対策マスコット
(厚生労働省)

平成27年度無料受診券の対象の方

40歳	昭和49年4月2日～昭和50年4月1日
45歳	昭和44年4月2日～昭和45年4月1日
50歳	昭和39年4月2日～昭和40年4月1日
55歳	昭和34年4月2日～昭和35年4月1日
60歳	昭和29年4月2日～昭和30年4月1日

※平成27年4月1日を基準とした年齢です。

○もし、感染していたら…

肝炎ウイルスに感染していることがわかったら、まずは、かかりつけ医に相談し、必要に応じて専門医療機関を受診しましょう。町では、肝炎ウイルス陽性者フォローアップ事業として、随時必要な相談や医療機関の受診の確認を行っています。詳しくは担当までお問い合わせください。

「熱中症」に注意しましょう！！

熱中症とは、高温多湿の環境に長くいることで、徐々に体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調整機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態をいいます。屋外だけでなく、室内で何もしていないときでも発症し、場合によっては命の危険にかかわることもあります

○熱中症の症状

・めまい、立ちくらみ、手足のしびれ、筋肉のこむら返り、気分が悪い、頭痛、吐き気、嘔吐、倦怠感
→上記のような症状がみられたら、涼しい場所に避難して体を冷やし、水分・塩分補給を行います。症状が良くならない際は、医療機関を受診しましょう。
重症になると…意識障害が発生します。

自分で水が飲めない、意識がない人を見かけたときはすぐに救急車を呼びましょう！

○熱中症を予防するには

- ・のどの渇きを感じる前にこまめに水分補給をする。
- ・窓を空けて風通しを良くしたり、扇風機やエアコンで室内の温度を調節する。
- ・屋外では帽子や日傘を使用し、直射日光を避ける。
- ・通気性のよい吸湿性・速乾性のある衣服を着用する。

「体調の変化に気を付けながら、正しい予防方法で、熱中症を防ぎましょう。」